

いけ しろへび

「けたの池と白蛇」

はたでら
畑寺のお話

むかし はたでら りようこ たに だいじゃ
昔、畑寺の竜口の谷に大蛇がいました。その大蛇の大きさは、
どうまわ どうまわ
胴回りが五十センチメートルもある大きな白蛇で、目が真っ赤な
めずら へび
珍しい蛇だったそうです。

あめ かみ せい
この蛇は、雨の神の精だったのか大変な神通力を備えて、木立
くさ
や草むらをのろのろとはうのではなく、一陣の風と共に、峰から
みね と
峰へかけるように飛んでいったといえます。その様子は、美しいと
こうとう
も、神々しいとも、たえようがないくらいでした。

ときどきはんたいがわ たに ひなた
その白蛇は時々反対側のけたの谷へ、日向ぼっこに行きます。
す ところ きたむ りようこ ひあ わる
住んでいる所が、北向かいの竜口の谷で日当たりが悪いので、
みなみむ あたた
日当たりのよい南向きの暖かいけたの谷へ行くのです。

じぞう まつ あめ ふ とし
けたの谷には、地蔵さんが祭ってあります。雨の降らない年は
むらびとせんぶ あつ あま
村人全部が集まって雨ごいのお祈りや、雨ごい踊りをして、地蔵
ねが
さんをお願いするのが村の決まりになっていました。畑寺はよその
ちが おか ひく みずぶそく くる
村と違って、山は丘のように低くて、水不足にいつも苦しんでいま
した。

この雨ごいの日に白蛇を見ると、必ず雨が降ふるので、村人は神かみの化身けしんだと、ありがたがっていました。

その年も雨がなくて、みんな弱よわり切きっていました。そこで、けたの谷たにで雨ごいをすることに決きまり、大勢おおぜいの村人が集まりました。

今日は白蛇も見えます。これから、お祈いのりりをするところきょうに蛇へびがもっと奥おくへ来るように村人を誘さそうので、主おもだった長老ちやうろうが後ろうしろについていくと、ずんずん奥おくに行いって、とうとうけたの山の頂上ちやうじやうに上のぼってしまいました。村人は驚おどろきました。

しかし、神様かみさまのおっしゃることに間違まちがいはないと信しんじて、村人は池いけを造つくりました。

今、けたの山の上にある池は、人間にんげんの常識じやうしきを破やぶって水を満まん々とたたえています。そして里さとの田たに水みづを送おくり、たくさんの米こめがとれるようになりました。

お盆ぼんの二十七日は、白蛇らいにお礼れいをするために毎年まいとし、盆踊ぼんおどりを盛大せいだいに行いいます。